



# 美杉中学校だより

みんなが幸せになれる学校  
すすんで学び行動しよう  
ぎぶあっぴしない

第 20 号  
令和 4 年 12 月 9 日発行  
美杉中学校長  
坂本 直哉

## 12/4 美杉人権を考える集い

12月4日(日)午後、『美杉人権を考えるつどい』が美杉総合文化センターで開催されました。美杉小 瀧本奈々さんと美杉中 眞伏闘志さん、今井利鳳さんの作文発表で始まりました。人と関わり理解すること、言葉の大切さなど、日常の生活で気づいたことを綴る内容でした。次に、教育集会所学習会のメンバーが夏休みのフィールドワークでの学びを劇風に発表しました。仕事のために、他の地域から移り住んだ人々への正しい理解がされないまま、蔑視(ベッ)する風潮が生まれ、現代につながってきたこと。地域の生活環境を改善する事業(道路等のイワ)が行われたが、その事業の目的がまわりに十分理解がされなかったことなど、わかりやすくまとめられていました。中途半端ではない正しい理解が、みんなが住みやすい社会を創っていくことへの第一歩になることを伝えてくれました。



その後、NPO 法人『LGBT の家族と友人をつなぐ会』浦狩知子さんによる「多様な性、親の願い ～カミングアウトを受けて、当時どう思い・どう行動して・これから願うこと～」の講演をいただきました。性同一性障がいのため、我慢や苦しみを抱えていたわが子のほんとうの心情を知り、そして寄り添い、その思いが、この障がいに対する理解を広め、支援の輪を広げる活動を支えているという

ものでした。当時の場面が思い描ける具体的な内容と浦狩さんのやさしさあふれるお話で、理解を深めることのできた講演でした。

## 1年生 がん教育

11月29日(火)。1年生の生徒を対象に、『がん教育』を行いました。『がん教育』では、健康教育の一環として、がんを正しく理解し、がん患者や家族等と触れ合うことを通して、自他の健康と命の大切さ・生き方を学び、共に生きる社会づくりを目指す態度の育成を目指しています。



講師の三重県がん相談支援センターの大西相談員からお話をうかがいました。50歳の時、職場の検診でがんが発見され、その後16年間がんと向き合っていること。昔とちがい、医療の進歩で「がん」＝「死」ではないこと。がんを予防するための12か条など。「病気だから特別扱いをしないでほしい。」「困ったときは助けてほしい。」「大丈夫?ではなく、何かできることある?と言ってほしい。」という大西さんからの言葉が印象に残る授業でした。

## 《白山高校との交流授業(英語)》



11月17日(木)。1年生の生徒が白山高校3年生と英語の授業でZoomを介して交流をしました。ネットトラブルのため開始が遅れましたが、生徒は「Hello, I'm OO. I like ΔΔ.」と自己紹介をし、高校生も簡単な英語であいさつをしてくれました。その後は、高校生が考えた「英語カルタ」を楽しみました。中学生に求められる「即興でやり取りをする力」が身についた授業であったと思います。